

令和5年度 全国学力・学習状況調査の本校の結果と考察

日頃より本校の学校教育活動にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

4月に6年生が行った全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、概要をお伝えします。

国語 集計結果

※%は平均正答率

	対象問題数	本校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体	14	73%	66%	67.2%
知識・技能	7	75%	68.5%	68.9%
思考・判断・表現	7	70.8%	64.0%	65.5%

本校の調査結果は全国、神奈川県の平均正答率をすべて上回る結果となりました。基本的な学力はおおむね身に付いていることが分かります。

しかし、「書くこと」の「図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題において平均正答率が低かったです。「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題と「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題における正答率は、全国や神奈川県の正答率と比べて差がほぼありませんでした。日頃から漢字や言葉の語彙を増やしたり、情報を精査して有益なものを選び取って使ったりする力を身に付けることが課題として挙げられます。

今後は日々の学習を土台にしながら、言葉の意味を理解して状況に応じて使い分けることができる力を身に付けられるように指導していきます。

算数 集計結果

※%は平均正答率

	対象問題数	本校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体	16	69%	63%	62.5%
知識・技能	9	73.9%	67.8%	67.2%
思考・判断・表現	7	61.7%	57.2%	56.5%

本校の調査結果は、国語と同様に全国、神奈川県の平均正答率をすべて上回る結果となりました。基本的な学力はおおむね身に付いていることが分かります。

問題別にみると、乗法の意味や計算に関して成り立つ性質への理解を問う問題は高い正答率となっています。しかし「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、無回答率が高くなっています。データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために多面的にとらえて考察し、記述する力を身に付けることが課題として挙げられます。

今後は日常の事象を数理的に捉え、考察する力を身に付けられるように指導していきます。

児童質問紙調査 集計結果

※%は平均正答率

ほとんどの項目で、前向きに取り組む意識やよい生活習慣を心掛けようとしている回答が見られました。引き続き、家庭、地域と連携しながら子どもたちを育てていけるように、今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

特に顕著だった質問項目についてお伝えします。

生活面

全国・神奈川県と比較して「当てはまる」の回答が特に顕著な結果だった質問	本校	神奈川県	全国
人が困っているときは、進んで助けていますか。	57%	45.2%	45.6%
将来の夢や目標をもっていますか。	55.8%	59.4%	60.8%

「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた児童の割合は、全国や神奈川県に比べて高い結果となりました。児童間の横のつながりに加え、一年生とのかかわりなどを経て、人を思いやる心が育ってきていると言えます。反面、「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童の割合は、全国や神奈川県に比べて低い結果となりました。子どもたちが興味・関心をもち「楽しい」と感じられるような経験をすることができるよう、子ども主体の取り組みや達成感が感じられる活動を計画的に実施していきます。

学習面

全国・神奈川県と比較して「よくしている」「当てはまる」の回答が多かった質問	本校	神奈川県	全国
学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	40.7%	29.8%	31.0%
国語の勉強は大切だと思いますか。	76.7%	70.2%	69.1%
算数の勉強は大切だと思いますか。	77.9%	75.4%	75.3%
英語の勉強は大切だと思いますか。	74.4%	71.6%	69.8%

学習することの大切さに気付き、学びを積み重ねていこうとしていることが分かります。これらは生涯教育につながる感覚として、引き続き大切に育てていきます。